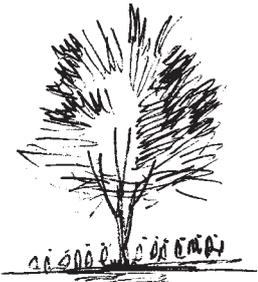


光の子



No.182 2017.12.11

●年間聖句 光の子として歩みなさい。(エフェソの信徒への手紙 5章 8節より)



「煌めく街で見つけた」

表紙絵・中島由起子

「遍路笠」

つきつきと青きを踏んで遍路発つ

蓬野にまろべば雲の流れ出す

陽炎の中より逆打ちの遍路

風の立つところに神や草若葉

釣り人と二言三言遍路過ぐ

海に出て風に採まるる遍路笠

燕来る水平線を盛り上げて

黛 まどか

マルコの語る福音の喜び 1章40-42節に触れて

北本教会牧師 阿部 洋治 (聖学院大学名誉教授)

—

「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」マタイによる福音書は、このように、主イエスの宣教開始をイザヤのこの言葉(9・1)で説明しています。マルコにとっては、カファルナウムでの安息日礼拝がイエスのデビューであります。しかし、マルコは、重い皮膚病を患っていた人の出来事(1・40-45)を、その後の主イエスの教えと働きの特徴として位置づけておられます。マタイのように文学的な表現はしておりません。しかし、マルコは、ここに、「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ」というべき現実を見ているのです。孤独で、虚しく、絶望的なところに隔離されていた重い皮膚病の人を立ち上げ、主イエスの前に跪かせたのは何だったか。それは、風に乗って伝わって来た主イエスについてのうわさでありました。

そしてね、重い皮膚病人がこの方のところに来たんだよ。この人に

助けを求めてね。跪いてき、そしてこの人に言ったんだよ。「もしあんたがしようときえ思ってくださいば、あんたはおいらを清くすることがおできになる」と。(1・40)

惨めさの中で、孤独の中で、絶望の中で、死を待つ以外に何も将来に期待することのできなかつた重い皮膚病人、人の前に出て助けを求めることなど望むべくもなかつた重い皮膚病人が、主イエスのところに出て来たのです。ですから、私たち自身、ここを読みながら、こうした福音の現実、マルコと共に、驚きつつ感嘆の声を挙げるのが期待されているのではないのでしょうか。

二

重い皮膚病人のこうした嘆願に対する主イエスの対応についての記述についても、聖書学者たちは冗長さを指摘しています。先の場合と同様に語り口調で読んで行くと次のようになります。「そうしたらさ、イエス様はね、深く憐れまれてね、ご自分の手を伸べてさ、触つてさ、そしておっしゃったんだよ。」学者たちは、「手を伸べて」、「触る」というのは幼稚な二重表現だということです。しかし、重い皮膚病の人に触れることは汚れることで禁じられていたことです。それだけに、ここでの主イエ

スの行動は、決して、あたり前のことではないのです。だから、語り手としては、「何と、主イエスはこの病人に手を伸べてくださったんだよ。」「いやそれだけではいい。この病人に触れて下さったんだよ」と驚きを隠せなかつたのではないのでしょうか。そして、大切なことは、主イエスのお答えです。新共同訳聖書は、「よろしい。清くなれ」と訳しています。しかし、原文では、「私はそうしてあげようと思う。清くなりなさい」となっているのです。つまり、「もしあんたがしようときえ思ってくださいば……」と、重い皮膚病の人が嘆願したことに対して、「私はそうしてあげようと思う」と答えて下さったのです。

三

主イエスは、私たちに約束をお与え下さいました。「どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」と(マタイ18・19)。実は、主イエスは、重い皮膚病を患っていた人の求めることに心を合わせて下さったのです。風のたよりに乗って伝えられた福音がこの病人の心に願いと行動を起こさせ、そして、主イエスがこの病人の願いに心を合わせて下さった。ここに、マルコの伝えた福音の喜びがあります。

旧盆のとき

老健施設みゆきの丘施設長 仙道 富士郎

この原稿の内容が掲載された「光の子」が読者のところに届くのは、クリスマス特集の前あたりの号になるのではないかと思うと、旧盆の話などいかに季節外れであり、筆を進めるのもためらってしまうのではあるが、今のこの気持ちをごか

に残しておきたいという想いが、私をパソコンの前に座らせた。今日は八月十八日である。

今年のお盆は三月に急死した姉の新盆だった。兄が六年前に他界し、今度は姉の死で、三人兄姉弟の私は一人取り残されてしまった。父は、五十六歳で私が大学生のときに

亡くなったこともあり、兄と姉にはずいぶんとお世話になった。還暦近くまで兄から仕送りを受けていたことは以前にも書いたが、姉には、お米、味噌、季節の野菜・果物等を、数十年にわたって、亡

くなるまで続けてもらった。私の叙勲のときは、姉は「これが最後かもしれないから」となげなしの百万円の札束を、私に渡した。偉そうなことを言ったり書いたりしてきたが、要は、独り立ちの叶わぬ寄生者であったのだ。

姉の墓参と父母や兄の眠る仙道家の墓参を兼ねて、私たち夫婦と長男・三男の家族四人で秋田へ向かった。

戒名の入った墓石の立ち並ぶ姉の嫁ぎ先の立派な墓所だった。その片隅の墓標の最後列に姉の戒名が彫ってあった。お墓の前で、これらの多くの仏さんの供養を引き受けなければならなかった生前の姉の苦勞を偲んだ。しかし、苦勞というものは、想いの行き違いによって、報われないこともあるのかもしれないとも思った。墓参を終わった後の夕食会で、姉の息子は、酔いも回ったのか、生前の姉からメガトン級の命令（と彼は感じていたようだ）を再三受けたことに困惑した旨の話をしていった。彼の父に似てウイットに富んだ甥は、この話を笑い話のように語っていたが、弟としては、亡くなった姉が少し可哀想ではあった。一泊して墓参から帰った迎え盆の十三日は、息子たち三家族計十

名、私たち夫婦を加えて総勢十二名の大パーティーで、いま人気の焼き肉屋に乗り込んだ。十二人の席順をネットのじゃんけんで決めようと提案した爺さんは、そんなことをしている暇はないと皆から拒否された。結局は息子十父軍団、孫軍団、嫁十母軍団にグループ分けして、盛り上がった。見たこともないような奇妙な飲み物を盛んに注文する息子たちを見ていると、まさに世の中変わりつつあるなあと思わざるを得なかった。

二次会は、我が家で乱痴気騒ぎになつてしまった。いつまでも立ったまま、酒を飲んでいる次男と三男に「漫談でもやったらどうだ」と冗談半分に仕掛けたら、一人の孫を巻き込んで三人で即興の漫談が始まり、「ジャジャジャンジャン」という奇妙な合いの手で始まる漫談は、十何話まで続き、一話終わるごとに彼らは、三男が持参したロシアの高級ウオッカをグラスで一杯ずつ飲み干し、結局、私への贈り物だったはずだが、彼らがほとんど飲み切ってしまった。それにしても、最近、息子たちは旧盆には帰省しなかったのに、なぜ今年は、皆でやってきたのだ。恐らく、「親父ももう八十歳だから、お盆にでも会わないと、会え

なくなる」と思ったのだろう。ありがたい息子心ではある。

まあ、そういう意味ではちょうど良かったわけで、彼らは、死んだときにどうしてもらいたいかを私から延々と聞かされることになった。私は大層な葬儀をしてほしくないということは以前から言っていた。（私より後に死ぬと思っている）妻は、「それは良いが、教え子たちが、いつまでもやってきて、その対応をするのは、とても大変だ」と言う。確かにそういうこともある。――さんを偲ぶ会」というのはよくあるが、偲ばれたくはない。ややあつて思いついたのは「仙道富士郎を肴にして飲む会」（会費二千元）である。開業医の教え子たちが参加できるように、それは日曜日の昼時でなければならぬ。

死んだ後の事まで指示する親父だなあと息子たちは思ったに違いない。

追記・クリスマス特集号に旧盆の話、誠に申し訳ないが、クリスマスとお盆は似たようなもの（?）、お許しあれ。

プレゼント

児童指導員 佐藤 義岳

ランドセル

ますだくんのランドセルは赤い。「ピカピカのくろいやつ」より「あかいほうがかっこいい」から、中学生になったお姉ちゃんのおさがりをもらった。年長さんのうちから、毎日しよって歩いた。ますだくんは『となりのせきのますだくん』シリーズに出てくる、恐竜の姿で描かれる男の子だ。

☆

どの子のランドセルにも、選んだり、贈ったりした人の思いが詰まっている。もとい家から持ってきて、実親や生家の思い出が残っている子。光の子どもの家に来てから用意した子。

職員と一緒にお店へ行って選んだ子。訪ねてくれた家族や親族と買いに出かけた子。

自分で選べた子。大人に気を遣い、自分で思っていたのと違う色を持って帰ってきた子（「ほんとうはみずいろがよかった」）。

希望、寂しき、愛しき、悔しき。年を経るうち、ランドセルの中身

は鉛筆の削りかすや、鼻をかんだちり紙、しわくちゃの手紙といったものに替わっていく。

それでもきつと、ランドセルの底に残る思いがある。何を残せるだろう。暮らしを重ねる中で、人とのつながりの中で、私たちはどういったはたらきができるだろう。

☆

今夏、光の子どもの家にランドセルを贈ってくださる方があった。子どもたちのことを気にかけてくださることに感謝しつつ、用いることはできないと思う。長く使うものだから、子どもの暮らしとのつながりや、子どもが選ぶことを大切にしたい。ご容赦ください。

櫛

今年、小学二年生の凜の誕生日プレゼントに櫛を贈った。

櫛を選んだのは、もともと使っていたプラスチック製の櫛の歯が欠けたから。それに、ある朝の凜がとてもかわいかったから。

☆

「佐藤さん、髪とかして」

「鏡に向かって、心の中で『かわいくなれ』って言いながら十回ずつとかすと、かわいくなるんだって」

そうなの？と、凜は自分で髪をとかし始めた。「かわいくなれ、かわいくなれ」と声を出して言うので、「心の中で、だよ」と突っ込むと、笑いながら口を結んだ。

☆

凜は持ち物の整理が得意でない。部屋は散らかり、なくし物もする。一つのを長く、大切に使えるようになれば、と、本つけの解櫛を選んだ。誕生日で渡すと、櫛よりも小さな花柄のケースを喜んでいた。

さて、櫛はいま洗面台の歯みがき用コップの中にある。凜は口をゆすぐのにコップを使わないから、櫛が水に濡れる心配はない。職員の配置替えがあつて、朝の凜を見られなくなってしまったけれど、「かわいくなれ」が続いていればいいと思う。

☆

ところで贈り物として櫛は縁起がよくないらしい。「苦」「死」に通じることを避け、九と四を合わせた「十三や」を屋号とする櫛屋もある。

しかし光の子どもの家はキリス

ト教の理念に基づく施設である。櫛から苦や死を恐れてなんになるう（むしろ十三の方が縁起が悪いのではないか）。……縁起は都合に応じて担ぎたい。

アヒルと靴下

クリスマス会でプレゼント交換をする。去年は小さなアヒルのおもちゃを買った。どこかの家のお風呂で遊んでもらっておいで——と送り出した。なのに、どの家にもアヒルがない。お客様のところに行ったらしい。

私のところには、未就園児だった羊子の靴下（お菓子入り）をもらった。包みを開けて確かめる楽しみはなかった。クリスマス会が始まるなり、羊子が「なかみて」と持ってきていたし、羊子が振り回して袋が破けていたから。これもかわいい思い出。

☆

それではみなさま、よいクリスマスを。

休載のお知らせ

近藤みちるさんの「共育ちカンガルー日記」は都合により休載させていただきます。次号183号（正月号）から掲載の予定です。お楽しみに。

私達は、生活の中で「そのうち」とか「とりあえず」とかいう言葉を、よく使うことがある。

いろいろな予定を、はっきりと日付けや時間を決めないで、都合をみながら決定すれば良いのである。

そのうち 中島 睦雄

したがって「そのうち」や「とりあえず」は、はっきりと断定しないから、大変便利な言葉である。

ただし、意識的に断定を避けたりする時の、言い逃れにも、もってこいの言葉なのである。

昔の知り合いの人などに、偶然出会ったりすると「やあ、しばらくだね。元

気？」「うん、何とか生きてるよ」「ところで、あの頃の人と最近会ってないよなあ」「うん、そのうち、みんなが集まろうや」「そうだなあ、そのうちにな。みんなが元気なうちになあ」と、会話を交わす。しかし、いくら待っていても、

「そのうち」が具体化しない。誰も責任をもって一步をふみ出さないからである。

こんなことは、もう、あたりまえになっている。もつとも、そんな時の会話の中の「そのうち」は、初めから余りあてにしていけないから、どうということもない。

ただし、この「そのうち」が、きちんと具体化する例もある。私達の中学時代の同級生であるが、仲間のK君が、みんなに手紙を出して、呼びかけたのである。

しかも二十年以上前から、一年に二回、それが毎年。しかし、最近では、年齢を重ねてくると、いろいろな都合で参加できない仲間もいて、だんだん参加人数が少なくなってしまう。

いろいろな観光地などへ、一泊か二泊するのである。しかも、なるべくみんなが参加し易いように、比較的安い施設をとってくれる。或る時、K君から、不思議な連絡があった。

行く先も、施設も書いていない。大宮駅の東口へ、何時何分に集まってくれ。バスが迎えに来るか、というのである。いわゆるミステリーツアーである。ただ、K君の企画だから、決して悪いよう

にはしない。何かきつと、おもしろい事になるのだろう。と、参加を申し込んだ。思ったよりも多くの参加者が集まった。

家の者に「どこへ行くの？」と聞かれても、答えようがない。「バス毎、海の中へ放り込まれちゃうかもしれないよ」などと、冗談を言って、参加してみた。

大宮駅の東口へ集まった仲間と、連れて行かれた先は、群馬県の間、野外温泉のある、しつとりとした宿であった。実に楽しく過ごしたものであった。

或る時の旅の中で「いつも安いホテルばかりだけど、たまには少し高級なホテルも良いよなあ」という声が出て、その次には、K君が、箱根のかなり高級なホテルをとってくれた。

「そのうちに、そのうちに」と言っただけで、ボヤカス事をしないK君は、観光業でも何でも無い。普通に勤めて、定年後は特に何かに携わっている訳でもない。勿論、金儲けをする訳ではない。完全な奉仕である。

その為に私達同級生は、どんなにか楽しい経験をもらったのである。そんなことで、集話会と名付けられた同級生の集まりが、去年の

秋、五十回目の旅行であった。

「この会も、もう五十回やったんだし、みんな高齢化して、出て来られなくなったりしたので、五十回の区切りで、止めることにしよう」という声が出て、みんなが了解し、集話会は、やめる事になった。これまで、世話になったK君に感謝しながら。

そんな訳で、もう全体に呼びかける集まりは無くなったのである。ただ、比較的集まり易い仲間の六、七人くらいは、集まることもある。

K君からの電話で「オメンチで集まりたいんだが都合はどうだい？六、七人だけだ」

私は答えた。「うん、わかった。じゃあ、そのうち、こつちの都合を知らせるよ」と、K君、「そのうちじゃあダメだよ。何日の何時と決めなくちゃあ、ダメだよ」と。

そうだ、「そのうち」じゃあダメなんだっけ。「そのうち」という日は、永遠に来ないんだっけ。



クリスマス

原田家日記

原田家では、クリスマスの季節が近づいてくるとページェントで希望する配役で話題が盛り上がり、今原田家では幼児が二名、小学生が五名、中学生が一名となっており、年代によって希望する配役が異なってきます。少し早いです、ページェントの配役を生活の様子を振り返りながら予想してみたいと思います。今年も幼児の羊子ちゃんと菜々ちゃんと小学生の花梨ちゃんは天使になることでしょう。武士は羊飼いでしょうか？ 毎年、上演中に寝てしまうイメージが残っています。そして予想することが難しい、林檎ちゃんと、輝夜ちゃん。毎年、配役が変わるイメージがあります。輝夜ちゃんはひそかに聖歌隊の希望を考えているかもしれません(笑)。林檎ちゃんは、歌を歌うのが好きですが、人前で歌うことに抵抗がありそうなので、天使長あたりでしょうか？ 楓君と中学生の瑠璃ちゃんは、今年も聖歌隊が鉄板でしょう。少し気がかりなのは、瑠璃ちゃんが受験生ということで塾

に通う毎日を送っている中で練習に参加できるかどうかです。その点を踏まえると、聖書朗読もありうるかもしれません。

これはあくまでも、個人的な希望と推測です。実際の配役はクリスマス当日に行うページェントを見にきて下さい。

皆様の健康と幸せを祈って。メリクリスマス。

新吉屋 健太

河のほとり 倉澤家

今年もクリスマスがやってきます。世間では恋人同士がロマンチックに過ごす日……のように思われがちですが、私にとっては子どもとの距離を少し縮めることができるかもしれない大切な時期です。その理由のひとつがクリスマスプレゼントの準備です。担当者は子どもたちにプレゼントを用意します。それを知っている子どもたちは、クリスマスが近づくと「今年もサンタに○○をもらおう！」「○○をお願いします！」と、それとなく欲しい物をアピールしてきます。そして、できるだけ期待に応

えられるよう、どの担当者も買い物に右往左往します。プレゼントを開け、ニヤニヤしながら「サンタさん、なんで欲しい物わかったんだらう？」と惚ける子どもに「本当だよ。サンタさんってすごいよね！」とニヤニヤしながら答える自分を想像しながら、今年もベストプレゼントを探します。

そして、もひとつが、二十四日に行われるキャンドルサービスです。担当者は子どもたちに、子どもからは担当者に、メッセージを贈ります。幼い子どもたちも、それなりに「○○さん大好き！」などとかわいいメッセージを伝えます。思春期真っ只中の中高生も表現方法は様々ですが、普段は伝えられないようなメッセージを伝えてくれます。ただ、皆の前で読み上げることは前提なので、100%本心かどうかは疑問ですが……。それでも、いつもより素直になれるのは、クリスマス・イヴの夜、キャンドルの灯の中で……という特別な雰囲気からなのでしょう。ここにいる間は、友人と楽しいクリスマスパーティーをしたいと思う子もいるようですが、毎年卒

園生たちがクリスマスにやって来てくれるということは、子どもたちにも「光の子どもの家」が自分のクリスマスになったということなのだと思っています。

今年もたくさんの方々と「光の子どもの家のクリスマス」を迎えます。

倉澤 智子



光の中で 佐藤家

「勉強は嫌いだ。学校やめて職人になる」

三年前の秋、高校を自主退学して地元の造園会社に弟子入りした三郎、紆余曲折を経て間もなく二十歳を迎えます。

前述のように、決してまっすぐ歩んできたわけではないこれまで、一時期は、より楽で実入りのいい

職を求めて「造園は辞める、営業をやる」「営業は向いていない、運送業をやる」「運送業は条件が合わない、テキ屋をやる」……等々。それまで何とか維持してきた緊張感が崩れると坂を転がり落ちるように生活は乱れ、それを正当化するかのように次第に強がりばかり言うようになりました。

どこで何をしているのか、いつ仕事でいつ遊びなのかも側で見ていてわからないくらい、その日暮らしの日々を経た挙げ句「やっぱ造園に戻りたい」というわがままを最初に世話になった会社が受け入れてくださり、今があります。

そしてこれから……これまで職員宿舎の一室を寝床にして生活していた三郎は自家用車を手に入れたことで行動範囲が広がり、この秋から近辺のアパートで一人暮らしを始めました。

『二十歳まではここ（職員宿舎）から仕事へ通っていいから、それまでに自立資金を蓄えておくように』と理事長より得ていた猶予期間を少し短縮しての自立スタートです。

これからもまっすぐな道のりとは行かないでしょうが、どんなに回り道しても『それは必要なことだったんだ』と、後で思えるよ

うな人生を歩んで欲しいです。

小西 剛史



季節の訪れ 牧野家

日向はとても素直な子どもだ。動物を見れば、「うわあ〜!!かわいい!!!本当にかわいいねえ!!」と笑顔になり、好きな物を食べれば

「おいしいいい!!」と人一倍表現してくれる。先日、夕食後に「ママ、夜の散歩いこうよ」と日向が言った。私の運動不足解消も兼ねて、二人で近所を歩き始めた。昼間歩いている通学路も夜は何だか

霧囲気が違う。それを敏感に感じとり、日向は「何か、ママと二人だけで夜のお出掛けみたいだね!」「す〜く星がきれいだね!」とテンションが上がっていた。私が「今

見えている星の光は、星が今よりもっと前に放った光なんだよ。やつと今ここまで届いているんだよ」と言うと「ええ!!それじゃあ、星は歴史の証だね!!」と言う日向。

日向の口から「歴史の証」という大人びた表現が出たことに私は驚かされた。やはり、日向は良い感覚の持ち主だ。

だいぶ気温が低くなってきたころ、私は普段使っているエプロンを厚手のものに替えた。日向はすぐに気付き、「あれ、ママ、これいつもと違う」と言うので、「そう、寒くなってきたから替えたの」と言うと、そのエプロンを触りながら、「うん!ママ!パパかわいいね!!」と一言。「かわいい」の前に丁寧に「パパ」を付けてくれた。アラフォーに近づいた私に対して「かわいい」という言葉はふさわしくないと思った日向の素直な表現だった。良く言えば素直、しかし、思ったことを何でも口にしてしまうこと……それは日向の課題でもある。

牧野 由紀子

子どもの季節 仙道家

気づけば一年が終わろうとしています。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

クリスマスが近づき、気が早いものでサンタさんに頼むプレゼントを早くも決めている子どもがでてきました。

そんな中、先日高校生の仁が念

願のスマホを持つようになりました。スマホを持つまで沢山話し合い、本人にとっては「ようやく」という感じだったかと思えます。契約に行った日に、彼は車の中で突然頬を強く叩いたそう。どうしたかと聞けば「夢じゃないよね?」と言ったようです。詳しく聞けば、この日までに三回ほどスマホを買った夢を見たそうで、持てて喜んだと思えば現実に戻され落胆したとのことでした。夢を見るほどスマホが持たなかったのかと、聞いたときは笑ってしまいました。持てた日は、想像通り部屋に籠ってスマホをいじっていました。

スマホを持つことになって友達と連絡が取れるようになったことが嬉しかったと言っていました。心配事が無いとは言えません。危険なことに巻き込まれないことを願いながら、私たちは見守ることの難しさと向き合い過ごしていくのだなと思っています。

東宇 沙晃



人と関わるはたらきは

菅原 哲男

天に栄光、地には平和あらんことを心から祈ります。

私ことだが、この数年次々に同胞が他界している。その度に次は私かななどと、自らの死亡適齢期であることを身近にしている。

つい先週、長いことシアトルで暮らして、子孫が三〇名ほどの一族を形成してきた姉が召された。

その病院の名を善きサマリヤ人の病院といった。私の第六書名である「隣の人」と、出典を同じくするものであった。

そこは徹底して延命治療はしないという欧米の医療の基本に沿っているようだった。自力で食べるのが出来なくなったら死を待つというのが基本である。チューブだらけで延命するということは決してないのだ。そして、専門職である医師や看護師はその職にあるという意味以上の権威や特権とは無縁であるということも徹底していた。

毎日姉の一族の誰彼がやってきて見守りを続けていた。その誰かが

ジュースを床にこぼした。すると、そこにいた看護師がさつとそのジュースを雑巾で拭き取ったものである。

また、看病に疲れて廊下のベンチに座っていると、通りかかる看護師などが、大丈夫ですか？コーヒーでもお持ちしましょうか？などと声をかけてくれるのである。こんな光景は、パターナリズムを地で行く日本の医療機関で経験したことも目にしたこともなかった。

さて、死亡適齢期である七十八歳の私と、八十二歳だった姉のことである。

私は、同胞六人の真ん中の三男である。姉も、兄も、妹も、弟も持つのは私だけである。そこから同胞六人の真ん中と自認している。

四歳違いの姉は、ケンカ仲間であり、母ともいえる存在だった。

私は軍国主義真つ只中に生まれた、いわゆる産めや殖やせの富国強兵策の申し子でもある。敗戦年に国民学校（小学校）に入學した。

顧みればただでさえ赤貧の我が家だった。戦争から敗戦という事態は、

全国的に貧窮状態をもたらした。殺伐とした状況は貧しさがもたらしたものだつたらうと強く思う。その時代に子どもたちに十分な食料がなく、娯楽など思いの外であった。だから自分たちで遊びや楽しみを創る自由もあつた。高価なゲームを与えられてそれ以外遊びを知らない現今の子どもたちの貧しさを心から憂う。

その頃、お盆やお正月、お祭りなど、腹一杯、晴の食事が食べられ楽しみにする時でもあつた。

私は、四歳で二年間姉に連れられて小学校に通った。父母は家族の経済にとられ、姉が学校で私のケアをした。そこは、本校に四キロあまり離れた分校だったので、こんなことも可能だったと思われる。

その八十目前の私が八十過ぎた姉の死によって、かなり大きな喪失感と衝撃を受けているのである。

人の死は、その人格を完結してその人となりをはつきり目にする事が出来るようになるのだ。

八十二歳でその人生を終結した姉の完了した人格と意味を明示してくれるのである。

戦後間もない秋田の寒村から、大きな希望と不安を内包させて渡米し、その国の確かな男性と出会い結婚して子をなし、その子たちに必要なことどもを備え、三十余名の親族を形

成したものであることをまざまざと示してくれたのである。

振り返って私たちが立ちあげた光の子どもの家には、幼くして父や母などの家族から引き離されて、見も知らぬ人々と暮らしを紡いでいる子どもたちがいる。このことだけでも衝撃を感得しないで受け入れがたい事実である。

今は、130名に近づいた光の子どもたちの利用者たちは、それぞれ懸命に暮らしを形作っている。

つい最近、父が再婚して四年生でその家庭に引き取られた三十代半ばの姉妹から電話があつた。姉より早く結婚して三名の子どもに恵まれた妹のほうから、父が変になった、と聞いてみると認知症の疑いがあるようなので、医者に行くことと市役所に相談することを提案した。早速医者に連れて行き診察を頼んだことと、市役所では生活保護の手続きをするように言われたと報告があつた。

この姉妹の父親は、引き取る日にその鬼のような顔に涙を流した。「もうてっさんと酒を飲めなくなるなあ！」と言いなながら。

建築関係の監督をしていた父は、上野で仕事が終わった、誕生日おめでとうなどと言って、両手に持ちきれないほどの手土産を下げて訪ねてくれたことは一再ではない。

現場から

池田 祐子



クリスマスおめでとうございませす。
今年もあたたかいクリスマスを迎えられることをうれしく思います。
子どもたちは各々、幼稚園や小学校、高校へ通っています。その教育機関には、PTAがあり、各クラスごとに役員を決めます。「役員やります！」と、立候補する方がいれば、すぐ決まりますが、なかなか決まらない事こともあります。
他の保護者様同様、私たち施設職員もPTA役員になることもあり、数年子どもを担当している職員は、一回だけでなく数回、PT

A役員を経験しています。ですから、学校行事で役員の仕事をしている時に、「あら、池田さん。今年も役員なの？去年、一緒に役員やったわよね」「今年もまた一緒に役員ですわ」と、保護者の方から声をかけられたりします。
ただ、何度もPTA役員を経験しているからといって、PTA役員の仕事を「テキパキこなす」とはならず、いつもモタモタしてしまいます。「去年もバザーのお手伝いしたはずなのに、まったく覚えていない」と、いうことがとても多いのです。
PTA役員になる度に、また一から始めなくてははいけません。良

く言えば、PTA役員になる度に「新たな気持ちで！」PTA役員が「幼稚園だけ」「中学校だけ」と単独でもこんな調子です。ところが、担当している子どもたちが小学校と中学校に通っていれば、その年それぞれのPTA役員になるなど重なることもあります。そうになると「ん？これは小学校の集まりだっけ？中学校の集まりだっけ？」と、混乱することがあります。

また、近頃はPTA役員同士の連絡手段は「メール」「ライングループ」が主です。

私は、携帯電話を持っていないので「メールやライン連絡」ができません。

役員会招集があり解散後、「連絡はPTA会長から各委員会の委員長へ、そして委員長から各々役員さんへメールで一斉送信しますのでよろしく！」とお話があると私が所属する委員会の委員長の元へ「携帯電話を持っていないので、施設へ直接電話してください。お願いします」と、お願いに行きます。PTA役員になる度に、お手をかけてしまいます。

今年度も、私を含め数人が小・

中学校、高校で、PTA役員をやらせてもらっています。私は、今年度も、まわりのPTA役員の方々に「あら、池田さん今回も役員なんですね」と、声をかけていただいたり、お世話になりながら「新たな気持ちで！」やらせてもらっています。





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2017年7月~8月

- 2017年8月現在
 幼児6名 小学生13名 中学生6名 高校生8名 計33名
- 7月
- 4日 あいの実職員研修、見学来訪
 - 4日 関東ブロック研修へ田口
 - 4日 後援会によるうどん打ち 感謝
 - 4日 後援会、しずくの会とのバザー反省会 感謝
 - 5日 頑張ろう会 小学校教諭、役場職員来訪 感謝
 - 7日 主任級研修へ牧野、小西
 - 7日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
 - 11日 栃木県児童養護施設職員研修のため見学来訪
 - 14日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
 - 19日 神愛ホーム職員研修のため見学来訪
 - 19日 退所児童等アフターケア事業連絡会へ牧野
 - 20日 夏休みオープニングパーティー
 - 24日 小中学生算数数学検定受験
 - 24日 小学高学年山登り
 - 27日 小学低学年山登り
 - 31日 通報避難訓練実施
- 8月
- 1日 原田家家行事で長野県軽井沢へ
 - 2日 児童1名元職員宅へ宿泊 感謝
 - 2日 自転車2台寄贈 感謝
 - 5日 倉沢家、牧野家家行事で福島いわき市へ
 - 8日 仙道家家行事で静岡県伊豆へ
 - 12日 児童1名乳児院職員宅へ宿泊 感謝

- 15日 佐藤家家行事で秋田へ
 - 17日 刀川和也氏来訪宿泊
 - 18日 小学低学年、東京都練馬区立大泉交通公園の交通安全教室へ
 - 19日 稲塚氏、齊藤氏、宮本夫妻による科学実験&英語教室 感謝
 - 21日 8月生まれの誕生日会
 - 22日 中高生、東大宮教会の夏期学校に参加
 - 25日 ワーカーズコープによる中高生対象一人暮らしの金銭管理講習 感謝
 - 27日 青音協&早川潔氏による楽器作り体験 感謝
 - 28日 福島力氏によるポートレート撮影 感謝
 - 30日 消防署立会いの下、通報避難訓練実施
 - 30日 夏休みサヨナラパーティー
 - 31日 (株)キャストック様来訪 管弦楽団コンサート招待案内と就労支援のお話をさせていただく 感謝
- <寄贈者各位>
- 櫻井秀夫 志保屋 セカンドハーベストジャパン 高橋会計事務所 鴨川会 古河農友会 東埼玉バプテスト教会 他多数の皆様
- <ボランティア各位>
- 向井進 常松洋介 聖学院大学学生 聖徳大学学生 岡本有代 田村誠 丹羽健太郎 山田智 山田裕子 木田千恵子 他多数の皆様
- ☆今年も大変お世話になりました。皆様にとって良いクリスマスになりますように (黒川)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

クリスマスはファンタジーです。☆子ども時代にそう思えることを願いながら、光の子どもの家ではクリスマスをつくっていきます☆「育てらんねえなら産まなければ良かったんだ! ☆「おじいちゃんに見せたかったから」って何の理由だよ!」☆特に連休明け、学校に行きたくない気持ちと「今回も親は会いに来てくれなかった」という気持ちもあるのか荒んだ言葉で思いをぶつけてくる小学生☆自分のことを、自分のことだけを「欲しい」と願い、産んで育てて欲しかったということなのでしょう☆ただ最初から育てるつもりがなく産む人はそう居ないこと、何と言っても、妊娠・出産は女の人にとっては命がけなので、誰も簡単になんて考えないと思う、ということも伝えました☆しかも、欲しいからと言って授かるものでもなく、あなたが今、ここに生きて「居る」ということはキセキなんだよ、とも☆「欲しいゲームをくれないで何がクリスマスだよ! だったらプレゼントなんていらねえよ!」☆目に見えない愛や信頼を信じられるか否か。本当に難しいです☆ただ、これは私の課題でもあるのでしよう☆彼らが表現できていないその力を信じ、関わり続けていきます。良いクリスマス(岩崎)